

【中学生の部最優秀賞】今を一生懸命生きる

三重 神風館道場

三重 中学校 二年

こじま なこ

小嶋 奈子



令和六年一月一日。石川県能登半島で大地震が起こりました。三重県では少しの揺れを感じた程度でしたが、国防の仕事に就く母は、私と姉を自宅に残しすぐに出勤しました。そのとき私は、母はいつ帰ってこれるのかな、初稽古に間に合うのかなと心配してしまいました。しかしその後、被災地での地震の状況がテレビやインターネットで流れるのを観て、何百人もの人が行方不明になっていたり、完全に孤立してしまった地域があることを知り、被害の大きさに驚きました。また時間が経つにつれて、余震や寒さに震えながら非難されている人達や、新学期が始まっても登校できない子供達がいることを知りました。私は、被災地で剣道をしている人達の道場や防具や竹刀は破損したり紛失していかないのだろうか、稽古をしたくてもできない人達が大勢いるのではないかと被災地の人達の事を考える様になりました。そして、地震直後に出勤していく母を見て、自分のことしか考えられなかったことを恥ずかしく思いました。私達は地震の影響が無かったため、普段通りの生活を送ることができ、次の大会を目指して稽古に励むことができます。しかし被災地で過ごす私と同じ中学生はどうしているのだろうか、常に頭から離れさせないで。そんな中、被災地でボランティア活動をされている方々の姿を見

て、自分自身に何かできないだろうかと考えました。現地へ行って何か手伝えることはないだろうか、困っている人達の力になれないだろうか。悩んだ末に私が出した結論は、今を一生懸命生きることでした。私はまだ中学生です。現地へ一人で行くことも、現地で何か活動することも一人では困難です。今の私にできることは、一日一日を大切に感謝の気持ちを忘れず生きることです。中学校へ登校すればたくさんの方達に会えます。嬉しいことがあれば共に喜び、悩みがあればいつも相談にのってくれる大切な友達があります。そして、今も大好きな剣道を続けられています。道場にいけば、いつも厳しく温かい監督や先生方、なにかあっても全てを包み込んでくれる保護者の方々、苦楽を共にする仲間がいます。また、家に帰ると私の目標である姉と毎日限界まで体をつかい一人親で頑張ってくれる母がいます。近所には私を甘えさせてくれる祖母もいます。このような幸せな環境であるにも関わらず、私はわがままを言つて困らせたり、全てを面倒くさいと思ひ剣道や勉強から逃げようと考えてしまうことがありました。しかし、今回のような災害はいつでも起こるかわかりません。後悔する人生を送らないためにも、今の時間を大切に、全ての人に感謝の気持ちを忘れずに生きていかなければいけないと気付きました。大好きな剣道ができることは、あたりまえではありません。監督や先生方、保護者の方々、仲間、家族がいてくれるから今も続けられます。

これからも感謝の気持ちを忘れず、日々の稽古を大切に道場へ向かいます。そして命を大切にすると共に、将来は母のような人に役に立てる仕事に就けるよう頑張ります。